

COM200 メディア論

4年 1,2クォーター

担当教員 島岡 哉

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 要素を含む

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

新聞やテレビなどの従来型メディアおよびインターネット上で展開する種々の新メディアを含めて、メディアの定義と類型、メディアの社会的機能、メディア情報の効果や影響力などに関する基礎的理解を得る。その上で、地方新聞、ローカルテレビ局、CATV、コミュニティラジオなどの地域密着型メディアについて、地域社会における役割や機能、地域づくりとの関わりを具体的事例に即して学ぶ。

到達目標

- ・メディアというテーマとそれを読み解く学問領域について、豊かな知識を獲得し、理解する。
- ・領域横断的な思考力と、論理的思考力を涵養する。
- ・本講義で扱った分析概念を用いて日常生活世界を考察する力をつけることを目指す。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

- 1『文化社会学入門』 井上俊、長谷正人 ミネルヴァ書房
- 2『現代メディア史』 佐藤卓己 岩波書店
- 3『ポピュラーTV』 島岡哉ほか共著 風塵社
- 4『青年と雑誌の黄金時代』 佐藤卓己編 岩波書店

授業の方法

この授業は担当教員の講義形式で進める。

成績評価

講義内容の理解度を問う試験（60%）、（出欠を兼ねた）講義の最後を書くリアクションペーパーへの記載内容（40%）の双方で、総合的に評価する。

成績

- 40% リアクションペーパー
- 60% 定期試験

授業スケジュール

情報社会は近年になって成立したものではない。個々のメディアの成立とそれに伴う社会編成の累積のうえに成り立っている。したがって、この授業では、近代から現代に至るメディア変容とその社会的な意味を見直し、ナショナリズムやグローバリズム等の問題も視野に入れながら、今日の情報社会の特質を浮き彫りにする構成をとる。

第1回：

「情報」＝「マスコミ」？——「脱常識」のメディア論

第2回：

近代国民国家の形成——小学校という巨大「国民化」メディア

第3回：

国民の統合／細分化——幻燈、電信、電話、ラジオの機能

第4回：

映画による「動員」——第2次世界大戦下のドイツと日本

第5回：

メディアが作る記憶／歴史——「8月15日」「9月2日」をめぐって

第6回：

テレビの登場と「皇室」——「世論」概念の再検討

第7回：

日常生活に潜む「権力」——「サブリミナル効果」とは？

第8回：

身体とメディア——音楽教育・メディア・身体・ファッション

第9回：

災害時におけるメディア①——阪神・淡路大震災（1995）、日本海重油災害（1997）

第10回：

災害時におけるメディア②——東日本大震災（2011）、紀伊半島大水害（2011）

第11回：

地域とメディア①——地方新聞の機能と役割

第12回：

地域とメディア②——ローカルテレビ・CATVの機能と役割

第13回：

地域とメディア③——コミュニティラジオの機能と役割

第14回：

情報戦争——監視社会の成立

第15回：

モダニティの現在——人類学におけるメディアの研究群

事前・事後学習

- ・事前学習としては、参考書に目を通しておくこと。（1時間程度）
- ・講義聴講の後に、講義された内容・配布資料と共に対応する教科書・参考資料等の項目について理解を深めること（復習）。（1時間程度）